現地懇談会での建設業界からの意見

［　］は類似意見

１建設現場の効率化と品質確保 （発注条件（用地・補償等）の整備、ＩＳＯの活用等）	札幌	小樽	函館	室蘭	旭川	留萌	稚内	網走	帯広	釧路
①適期に施工できるよう早期発注してほしい。 ［早い発注であれば、年間の労務者の雇用や、資材調達についても効率が良い］	●	●	●	●			●	●	●	●
②発注前に支障物件・用地問題の解決を行ってほしい。	●		●			●	●		●	
③厳冬期にかかる舗装工事は、年度をまたいでできるようにしてほしい。	●	●			●	●	●			
④ＩＳＯを入札参加資格の主観点に反映してほしい。 ［除雪維持など地域貢献をしている企業を主観点などで評価してほしい］ ［工事成績を重視した入札参加資格としてほしい］	●	●					●			●
⑤共同企業体工事（施工分担方式）における技術者の専任条件について緩和してほしい。	●				●			●		●
⑥舗装工事は小規模でかつ工期も短い。施工体制、安全管理、出来高、品質管理などの提出書類の簡素化を図ってほしい。 ［測量業務では例えば月報などは提出を省略してほしい］							●			●
⑦交通誘導員の単価は、北海道の現状に合わせた単価に見直しをしてほしい。 ［市場が著しく変化する材料単価については、もう少し迅速な単価の見直しをしてほしい］						●	●	●	●	
⑧委託業務の成果品提出については細則に則って提出することになっているが、ある程度省略できれば人件費が削減できるので、簡素化を図ってほしい。						●				
⑨電子納品が実施されるが、電子納品の場合かなりの人件費がかかるので、それに見合う費用の積算を検討してほしい。						●				
⑩電子入札を早期に実施してほしい。国は既に実施しているので、道も実施しなければ効率化にならない。また、システム構築にあたっては、認証の問題など過度なコスト負担にならないようにしてほしい。							●			
⑪路盤工事に続いて、舗装工事が連続的に発生するケースで、一定程度路盤工事が終了した都度、部分検査もしくは段階確認検査による現場引き渡しにより、舗装工事の着工を可能にしてほしい。（適期施工が可能となる）			●							
⑫新分野に投資しようと固定資産を持つと経審の点数が下がるが、改善策について検討してほしい。 ［経審において未収金勘定の取扱に失敗して４０～５０点減点となった。経審の決算期のとらえ方にも問題があるのではないか］										●

２発注者・受注者の責任分担 （設計変更の取扱、施行条件の協議等）	札幌	小樽	函館	室蘭	旭川	留萌	稚内	網走	帯広	釧路
①設計変更も迅速に処理してほしい。 ［工事が完成したら速やかに検定を行ってほしい］	●	●					●			●
②監督員サイドも効率化（＝時間）の意識を持っていただければ、現場協議もスムーズにいく。									●	
③監督員と打ち合わせする際に使用する施工協議簿は業者側からの提出という一方通行でなく、同協議簿の承認印又はチェック欄などを活用するなどして相互確認できるようにしほしい。								●		
④現場協議にインターネットを活用するなど、効率化を図ってほしい。	●				●		●			
⑤時間コストを考えた場合、発注者側と一緒に協議に参加でき、その内容を踏まえ、業者側で事務処理できるような仕組みを検討したらどうか。					●					
⑥監督員と施工者側が共同で目的物を造るという意識を持ってほしい。 ［検定のときには業者の横に座って受検してもらいたい］ ［業界が今瀕死の状態。発注者の方々、特に若い監督員の方に共通認識をもっていただきたい］	●		●		●				●	
⑦設計変更が一方的な監督員の権限で行われるのではなく、契約後の受注者提案制度のようなものを設けてほしい。					●					
⑧監督員が現場にこなくなっており、コミュニケーションも少なくなっている。もっと意思疎通が図れるようにしてほしい。 ［工事評定点の高中低のケースなどを材料に研究会を行うなどの場を通じて、監督員と現場代理人との意思疎通を図ったらどうか］	●	●	●							●
３技術力の強化 （施行成績評定の透明化、当初設計の精度向上、技術レベルの向上）										
①舗装工事の場合、単純作業のため工事施行成績評定の創意工夫点が低くなる。新たな評価基準を作ってほしい。 ［変な形で主観点を付けられると会社は死活問題となる。公正な評価をしてもらいたい］	●		●					●	●	●
②評定表の評点の根拠を公開してほしい。 ［検定時に大枠で評価点数が分かるが、何故そうなったかの根拠が分からない］				●					●	
③現場での新しい提案が、仮に監督員段階で意見が一致しなくても、監督員が上司（主任監督員・総括監督員）と相談できるよう複数監督員のメリットを活かしてほしい。 ［複数監督員制の中に、主任クラスをリーダーにしたグループ監督員制度を設けてはどうか］								●		●
④監督員、検査員によって工事成績の評価点でかなりの差が生じるため、統一化してほしい。			●			●	●	●		
⑤設計のステップのレベルを、全国一律でなく、国民の要求や用途に合わせて、よりリーズナブルに考えていく時期にきている。				●						
⑥知事感謝状により表彰を受ける会社があるように、監督員も優良表彰を受けるような制度を作ったらどうか。(甲乙が地域に根ざしより良い仕事ができる意欲につながる)			●							

４民間の技術力活用 （段階確認の効率化、設計者と施工者との交流等）	札幌	小樽	函館	室蘭	旭川	留萌	稚内	網走	帯広	釧路
①路盤工事、舗装工事が連続的に発生するケースで、路盤工事の各箇所の終了の都度、部分検査もしくは段階確認検査による現場引き渡しにより、舗装工事の着工を実施可能にしてほしい。（適期施工が可能となる）（再掲）			●							
②三者検討会は、信頼関係に役立ち、非常に有効である。 ［受注した段階で、どういう目標であるか、設計の思想、地域住民なども含めて施工者がいろいろな情報を与えてもらうことは、非常にスムーズにいく］ ［設計者・施工者双方にとってメリットがある］ ［設計変更の迅速化にも役立つ］	●	●	●	●		●	●	●	●	
③協同で役所とコラボレートできるような体制を考えてほしい。		●								
④普通の会社ではこんなものまで作らないと思うものまで書類提出しなければならない。もう少し書類を無くしてもいいものを皆で検討するという方法をお願いしたい。						●				
⑤コスト管理については、自分たちも「時は金なり」との認識しなければならないが、発注者の方もそれを実践してほしい。 ［土日でも監督員と携帯電話により連絡がとれるように（又は打合せができるように）してほしい］							●			
５地域に信頼される建設業 （住民との交流、地域活動への参加等）										
①業界に対する悪いイメージを打破してほしい。まずは信頼回復すること。	●									
②４社で業務提携し組織を立ち上げた。新分野への進出や資材の共同購入、経営資源を共有して効率化を図っている。										●
③建設業が産業・雇用の場として業界の再編でもいいから生き残ろうとしている。例えば温暖化対策として林業に加え、売る･育てるなどの昔の林業を復活させるなど雇用確保。										●
６その他										
①行政の縦割りを解消し、建設関係の行政が結びついて施策を一緒に考えてほしい。		●								
②入札制度については、建設部、農政部等それぞれが色々な方法をとっているが、統一した方法、内容とならないか。							●			